

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	豊明市学校給食センター	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県豊明市首掛町下高橋 332番、333番3、334番2	構造	S造
用途地域	用途地域：無指定、市街化調整区域	平均居住人員	50 人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,935 時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年6月 予定	評価の実施日	2025年11月4日
敷地面積	5,923 m ²	作成者	上川 毅文
建築面積	2,522 m ²	確認日	2025年11月11日
延床面積	3,145 m ²	確認者	犬飼 和行



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 73%

③上記+②以外の 73%

④上記+ 73%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5.0

Q1 室内環境: 3.2

Q3 室外環境(敷地内): 2.5

LR1 エネルギー: 3.4

LR2 資源・マテリアル: 3.7

LR3 敷地外環境: 3.4

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.5

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.4

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

4.0

③敷地内の緑化

2.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	8.4 %
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %

②資源の有効活用

3.6

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
 外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$
 建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
豊明市学校給食センター

欄に数値またはコメントを記入 ■使用評価マニュアル: ■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
床、天井の二面に吸音材を使用している								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能								
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
1F事務室: 4.6%								
3.2 グレア対策								
1 昼光制御								
1階事務室: ブラインド制御+庇 2階事務室: ブラインド制御								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
F☆☆☆☆を全面積の70%以上採用								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
自然換気性能: 1/17.8 > 1/30								
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御								
敷地内全面禁煙								
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
独自								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観 (天井高)								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
リフレッシュスペース、1%以上、ミニキッチン、洗面カウンター、ベンチ装備								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
維持管理に配慮した設計が7項目である								
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震・制震・制振								
1 耐震性(建物のこわれにくさ)								
2 免震・制震・制振性能								
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								
排水管、通気管: 硬質ポリ塩化ビニル管、Eは不使用								
2.4 信頼性								
1 空調・換気設備								
2 給排水・衛生設備								
3 電気設備								
4 機械・配管支持方法								
5 通信・情報設備								
節水型器具、配管系統区分、受水槽2基、緊急用水栓								

3 対応性・更新性				0.2	3.7	0.29	-	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			平均階高=4.22m		5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率=0.06	3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.4	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性			② 天井ころがし配線、レースウェイ設置 天井ころがし配線、OAフロア内配線		3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性					3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性					3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性					3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性					3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保					3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.37	-	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出			独自③		2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性										3.5
LR1 エネルギー						0.40	-	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=1.05	3.0	1.0	0.23	-	-	-	1.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.13	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.53	3.0	5.0	0.45	-	-	-	5.0
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	3.0	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル						0.30	-	-	-	3.7
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			節水コマに加えて節水器具を採用している	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.9	0.63	-	-	-	3.9
2.1 材料使用量の削減			② 独自		4.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			鉄骨使用材料の強度UP、既製品柱脚、鉄筋トラス付デッキ採用		3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-		3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			② 独自		3.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	3.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			② 独自		3.0	0.24	-	-	-	
躯体と仕上げ材が容易に分別可能(LGS採用)、再利用できるユニオ部材(OA707)				3.0	5.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.3	0.22	-	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.5	0.68	-	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			押出法ホリスレンフォーム断熱材(ノンフロン断熱材) 採用		4.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境						0.30	-	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮			①		4.0	0.33	-	-	-	4.0
ライフサイクルCO2排出率73%							-	-	-	
2 地域環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.2	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自		3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制			独自		5.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			駐輪場、駐車場、配達員用駐車場の確保、出入口の配慮		2.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					-	-	-	-	-	
1 騒音			独自		-	-	-	-	-	
2 振動			独自		-	-	-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.6	3.0	0.67	-	-	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制					3.0	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制					3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.3	3.7	0.33	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					4.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30	-	-	-	
							-	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.0	0.10	
② 資源の有効活用				3.6
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.9	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.11	外構緑化:8.4%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 豊明市学校給食センター

計画上の配慮事項	
総合	屋上に太陽光発電設備を計画し、設備システムの高効率化を図った。 室内環境、サービス性能、資源・マテリアル、敷地外環境に配慮した。
Q1 室内環境	床、天井の二面に吸音材を使用している 昼光率: 1F事務室 4.6% 1階事務室:ブラインド制御+庇 2階事務室:ブラインド制御 F☆☆☆☆を全面積の70%以上採用 自然換気性能:1/17.8>1/30 敷地内全面禁煙
Q2 サービス性能	リフレッシュスペース、1%以上、ミニキッチン、洗面カウンター、ベンチ装備 維持管理に配慮した設計が7項目である 排水管、通気管:硬質ポリ塩化ビニル管、Eは不使用 節水型器具、配管系統区分、受水槽2基、緊急用水栓 平均階高=4.22m 壁長さ比率=0.06 電気配線、通信配線;天井こがし配線、レースウェイ設置
Q3 室外環境(敷地内)	特になし
LR1 エネルギー	BEI=0.53
LR2 資源・マテリアル	節水コマに加えて節水型器具を採用している 躯体と仕上げ材が容易に分別可能(LGS採用)、 再利用できるユニット部材(OAフロア) 押出法ポリスチレンフォーム断熱材(ノンフロ断熱材)採用
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率73% 駐輪場、駐車場、配達員用駐車場の確保、出入口の配慮 「光害対策チェックリスト」の過半の項目が一部である。広告物照明なし
その他	